

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 070

(2024/25年度 USDA米国農務省 5月10日発表)

① USDAの新年度(24/25年度)穀物予想発表。大きな波乱はなく概ね順調な滑り出しだが、懸念材料に注視必要…

24/25穀物年度は下記の品目別コメントと添付の「需給表」にある通り概ね順調な滑り出しである。穀物/大豆の生産量見通しは合計32.6億ト(28.4+4.2億ト)と前年32.1億ト(28.1+4.0億ト)から0.5億ト増と概ね順調な見通し。懸念材料は、①エルニーニョ現象等に起因する異常気象(早魃/洪水/霜害等)発生による大幅減産 ②ウクライナ戦争や地域紛等による食糧減産と供給不安 ③パナマ運河渇水や中東政情不安によるスエズ運河等に於ける船舶の運行制限等が挙げられ、今後注視していく必要がある。

② 世界最大の小麦輸出国ロシアと世界最大の大豆生産/輸出国ブラジルに相次いで天候異変、穀物価格が高騰

今月のUSDA発表に前後して前述した懸念材料がロシア/ブラジルで相次いで顕在化している。ロシアでは今月初め南部穀倉地帯のリベック州等に寒波襲来、低温/霜害により冬小麦/コーンに被害が発生、小麦価格が5/1の約6ドルから5/15には7ドル/bu近くまで上昇し生産予想も先月の92⇒88百万トと急減し更に減少可能性がある。またブラジルでは第二の大豆生産州の南部リオグランデドスル州で豪雨による洪水が発生し約100万トの収穫を喪失。この様な状況からファンダの動きが活発化、穀物市場高騰を招いている。

③ 米国コーン需給構図に大きな変化をもたらすバイオ燃料増産とエタノール生産企業の寡占化の進展に注目

米国は大豆の生産/輸出数量においてはブラジルに首位の座を明け渡したが、コーン生産に於いてはブラジルの約3倍の3.9億ト世界シェア32%と圧倒的な存在を示している。いまやその生産量の約1.4億ト(35%)がエタノール生産に向けられその生産量は150億ガロンまで拡大している。しかしその内部構造は、2012年以降原料であるコーン価格高騰(6.5~8ドル/bu)/工場建設過剰/採算悪化等により中小メーカーの破綻が相次ぎ、最盛期200を超えた工場数は穀物メジャーであるADM、専業メーカーであるPDET、多国籍エネルギー複合体のVarelo、コーン/エタノール垂直統合体のGreen Plainsの4強体制に集約されつつある。

1、世界穀物需給の概要(大豆除く)

① 生産量:	2,838百万ト(前年比1.1%)	増↑、前月比0.1%	減↓)
② 消費量:	2,842百万ト(前年比0.9%)	増↑、前月比0.0%	⇒)
③ 貿易量:	503百万ト(前年比1.0%)	減↓、前月比0.0%	⇒)

2、小麦

① 生産量:	798百万ト(前年比1.3%)	増↑、前月比0.1%	増↑)
② 消費量:	802百万ト(前年比0.3%)	増↑、前月比0.1%	増↑)
③ 輸出量:	216百万ト(前年比0.2%)	増↑、前月比0.6%	増↑)
④ 在庫量:	254百万ト(前年比1.6%)	減↓、前月比0.2%	減↓) / (在庫率32%) うち中国133百万ト、占有率52%
⑤ 価格:	\$6.06/Bu (前年\$6.47/Bu / 前月\$5.67/Bu) と前月比\$0.39 上昇。		
⑥ 概況:	新年度の世界小麦生産量はインド/中国/豪州等で増産が見込まれ8億トに手が届く史上最高見通し。消費量は世界的に食品/工業用需要増加等から8億トを超えこれも史上最高見通し。価格は期末在庫減少からようやく6ドル台を回復した。		

3、とうもろこし

① 生産量:	1,220百万ト(前年比0.7%)	減↓、前月比0.2%	減↓)
② 消費量:	1,221百万ト(前年比0.4%)	増↑、前月比0.0%	⇒)
③ 輸出量:	191百万ト(前年比3.2%)	減↓、前月比0.8%	減↓)
④ 在庫量:	312百万ト(前年比0.3%)	減↓、前月比0.4%	減↓) / (在庫率26%) うち中国213百万ト、占有率68%
⑤ 価格:	\$4.47/Bu (前年\$6.53/Bu / 前月\$4.34/Bu) と前月比\$0.13 上昇。		
⑥ 概況:	世界生産量はBRA/中国等で増産となるが主産地である米国/戦時下UKRの収穫面積減少等により前年比8百万ト程度減産見通し。消費量は中国の飼料用需要増から逆に前年比5百万ト増加する見通し。輸出量は南米BRA/ARG合計で1千万ト程度減少し2億トの大台を割る見通し。期末在庫量が微減したことから価格は幾分上昇したが今だ4ドル台半ばで低迷。		

4、大豆

① 生産量:	422百万ト(前年比6.4%)	増↑、前月比0.0%	⇒)
② 消費量:	402百万ト(前年比4.7%)	増↑、前月比0.2%	減↓)
③ 輸出量:	180百万ト(前年比4.5%)	増↑、前月比0.3%	減↓)
④ 在庫量:	129百万ト(前年比15.0%)	増↑、前月比0.0%	⇒) / (在庫率32%) うちBRA38/ARG30百万ト
⑤ 価格:	\$12.02/Bu (前年\$14.69/Bu / 前月\$11.85/Bu) と前月比\$0.17 上昇。		
⑥ 概況:	世界生産量は主産地のBRA/米国で収穫面積/単収とも増加し4億トを大きく超え史上最高となる見込み。消費量は中国/ARG/米国で食用/工業用含めた搾油需要が増加しこれも4億トを超える見込み。輸出量は1.8億トと前年比大きく伸びる見込み。ただ生産量が消費量を上回る為期末在庫は前年比16百万ト増の1.3億トと重く、価格は上昇力を欠いている。		

世界の穀物・大豆等の需給

2024年5月10日
米国農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給							
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量	
全穀物	2021/22	2,755	3,553	496	2,771	782	
	2022/23	2,807	3,589	508	2,817	772	
	2023/24	4月	2,808	3,589	508	2,814	775
	2024/25	5月	2,838	3,611	503	2,842	769
小麦	2021/22	789	1,062	221	792	270	
	2022/23	788	1,058	216	800	258	
	2023/24	4月	787	1,058	213	800	258
	2024/25	5月	798	1,056	216	802	254
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2021/22	1,450	1,791	220	1,459	332	
	2022/23	1,502	1,834	239	1,495	340	
	2023/24	4月	1,505	1,837	241	1,493	345
	2024/25	5月	1,513	1,852	233	1,513	339
米	2021/22	516	699	55	520	179	
	2022/23	517	697	53	522	175	
	2023/24	4月	516	694	53	521	172
	2024/25	5月	528	703	54	526	176
大豆	2021/22	378	471	172	370	101	
	2022/23	397	497	172	386	112	
	2023/24	4月	397	498	173	381	117
	2024/25	5月	422	534	180	402	132

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	4月	302.19	1,227.86	187.47	1,211.77	200.59	318.28
	5月	313.08	1,219.93	184.37	1,220.75	191.10	312.27
アメリカ	4月	34.55	389.69	0.64	317.64	53.34	53.90
	5月	51.36	377.46	0.64	320.18	55.88	53.39
アルゼンチン	4月	1.17	55.00	0.02	13.10	42.00	1.09
	5月	1.54	51.00	0.01	14.80	36.00	1.74
ブラジル	4月	11.54	124.00	1.20	78.50	52.00	6.24
	5月	3.84	127.00	1.50	80.50	49.00	2.84
EU	4月	7.31	61.00	21.00	77.90	4.20	7.21
	5月	7.51	64.80	18.00	78.60	4.20	7.51
日本	4月	1.30	0.01	15.50	15.50	0.00	1.31
	5月	1.31	0.02	15.50	15.55	0.00	1.27
中国	4月	206.04	288.84	23.00	306.00	0.02	211.86
	5月	210.86	292.00	23.00	313.00	0.02	212.84
ロシア	4月	0.91	16.60	0.05	11.00	5.60	0.96
	5月	0.96	16.00	0.05	10.90	5.20	0.91
ウクライナ	4月	2.80	29.50	0.02	5.00	24.50	2.82
	5月	2.91	27.00	0.02	4.45	24.00	1.48

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	4月	101.31	396.73	170.33	381.08	173.06	114.22
	5月	111.78	422.26	176.40	401.74	180.20	128.50
アメリカ	4月	7.19	113.34	0.68	65.69	46.27	9.26
	5月	9.26	121.11	0.41	68.99	49.67	12.11
アルゼンチン	4月	17.21	50.00	6.10	42.75	4.60	25.96
	5月	26.15	51.00	5.50	47.60	5.50	29.55
ブラジル	4月	37.35	155.00	0.45	56.75	103.00	33.05
	5月	31.42	169.00	0.15	58.10	105.00	37.47
中国	4月	32.34	20.84	105.00	120.50	0.10	37.58
	5月	36.38	20.70	109.00	126.80	0.10	39.18
EU	4月	1.10	2.98	14.30	16.62	0.30	1.46
	5月	1.46	3.05	14.30	17.02	0.30	1.49

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	4月	271.00	787.36	212.34	800.10	213.47	258.27
	5月	257.80	798.19	209.42	802.37	216.00	253.61
アメリカ	4月	15.50	49.31	3.81	30.32	19.32	18.98
	5月	18.71	50.56	3.27	30.59	21.09	20.85
アルゼンチン	4月	4.07	15.90	0.05	6.70	10.00	3.32
	5月	3.88	17.00	0.01	7.05	11.50	2.34
オーストラリア	4月	4.37	26.00	0.20	7.00	20.50	3.07
	5月	3.07	29.00	0.20	7.00	22.50	2.77
カナダ	4月	3.51	31.95	0.60	8.70	24.00	3.37
	5月	2.37	34.00	0.55	9.30	24.50	3.12
EU	4月	16.04	134.15	13.50	112.50	34.50	16.69
	5月	16.69	132.00	11.00	111.25	34.00	14.44
中国	4月	138.82	136.59	11.00	153.50	0.90	132.01
	5月	132.51	140.00	11.00	150.00	0.90	132.61
インド	4月	9.50	110.55	0.12	112.97	0.30	6.90
	5月	7.50	114.00	0.30	113.00	0.30	8.50
ロシア	4月	14.64	91.50	0.30	42.00	52.00	12.44
	5月	11.44	88.00	0.30	39.75	52.00	7.99
ウクライナ	4月	2.90	23.40	0.08	7.30	17.50	1.58
	5月	1.18	21.00	0.08	7.20	14.00	1.06

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

世界の穀物輸出を牽引する大豆生産の拡大と油脂需要の動向(1)

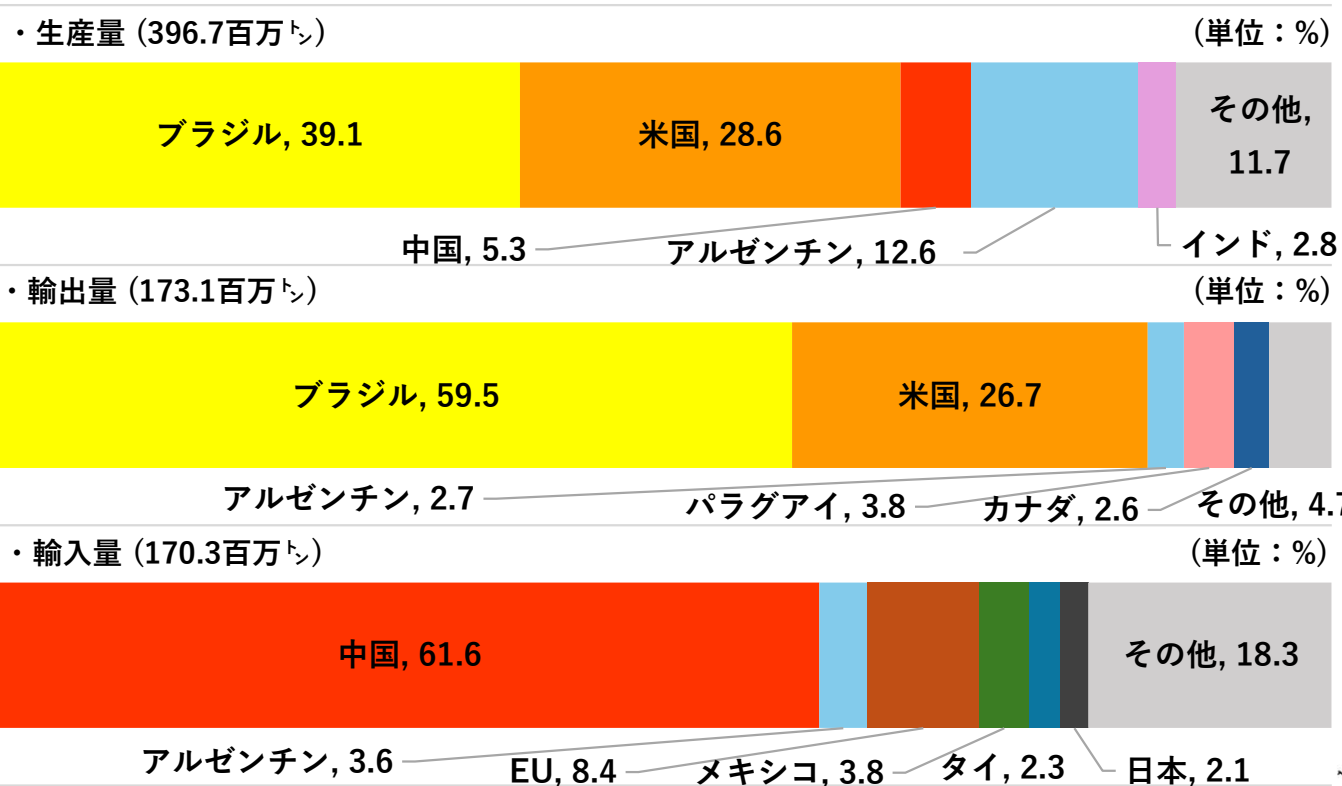
① 世界の穀物/大豆生産と海上物流は2000年以降2023/24までのこの4半世紀の中で大きく拡大した。具体的には別添「需給表」にある通り穀物生産は18.5億ト→28.1億ト(1.5倍)、大豆生産は1.76億ト→3.97億ト(2.3倍)、**合計20.3億ト→32.0億トと急激に拡大**。同様に海上貿易量は穀物/大豆合計2.6億ト(2.1+0.5)⇒**6.8億ト(5.0+1.8)**2.6倍と生産量伸び以上に大きく増大し、関連する大豆粕貿易量0.7億トを含めれば**合計7.5億ト**と三大Major Bulk Cargoの一角である「一般炭」海上貿易量9億トに迫り、**2028年にはそれを上回る見通し**である。今月号からは、この穀物類の生産/貿易量拡大のけん引役となり、生産量に対する**海上貿易率(43%)**が高く世界的な食肉需要と油脂需要拡大を支える「大豆」に焦点をあてることにしたい。

② [表1]は23/24年度の世界の大豆の国別生産/輸出入状況をグラフ化したものであるが、小麦/コーンの様に消費地・生産地が多角化している穀物と違い、大豆の世界は極めてモノカルチャールであり、ここでは**生産/輸出サイドでブラジル(一部ARG)米国、輸入サイドでは中国**の3カ国の存在が際立っていることである。この最大の背景は、中国特集の中で詳細に触れた、**爆食中国の食肉需要増大と配合飼料需要の拡大に伴う食糧需給構造の転換**である。中国は1949年建国以来、「食糧自給自足」を国是としたが食糧需給逼迫の中96年には「食糧自給95%」目標にシフト、その後政策は紆余曲折したが国内生産で14億の食確保には限界が生じ、2013年主食の小麦/コメは極力自給し「**油糧種子(大豆)は不足分を輸入する**」という**食糧政策の大転換**を行った。この間中国の大豆輸入量は2000年13⇒05年28⇒10年57⇒15年81⇒20年90⇒**24年100百万ト**と**世界大豆貿易量の61%**を占めるまでに増大した。経過を見れば、13年の政策転換は急激な大豆需要拡大に国内生産では追いつかず、輸入拡大が避けられなくなった**現状を追認**したものであると言える。

③ 一方、この爆食中国の大豆大量輸入拡大を可能にしたのはブラジルの生産拡大である。[表2]は1990年以降の世界の大豆生産/輸出数量推移であるが、ブラジルは00年40/15⇒05年59/26⇒10年72/33⇒15年100/57⇒20年140/82⇒**24年157/100百万ト**と**中国の輸入拡大に符号**した驚くべき増産と輸出数量拡大である。この間の推移を00年⇒24年で見ると**生産=約4倍、輸出に至っては約7倍**という穀物の世界では過去類例を見ない実態であり、過去大豆の世界に君臨していた米国を生産/輸出量ともあつと言う間に凌駕している。その急拡大の背景は、① **ブラジル中西部に展開する未墾の「マトピバ地域」の農地拡大**(特に「セラード」開発)② **穀物メジャーや地元有力農場運営会社等による農場関連投資と大規模化** ③ **南部サントス港や北部サンルイス/イタキ港等に繋がる163号線等の幹線道路/鉄道網/アマゾン水系等の輸送網整備**などが挙げられる。この様なことから、ブラジル中西部は**さながら「中国の大豆畑」**と化していると言っても過言ではない。

④ 他方米国は、図表2から読み取る大豆生産/輸出数量は00年75/27⇒05年84/25⇒10年90/43⇒15年107/46⇒20年115/62⇒24年117/50百万トと10年までは生産/輸出数量ともブラジルを上回っていたが、15-20年は生産量は拮抗、**20年以降は生産/輸出量とも完全にブラジルに逆転**され現在に至っている。次回以降触れるが、近年米国は輸出よりもより付加価値の高い**バイオディーゼル用の国内搾油事業に傾斜**しており、この流れはより拡大するものと思われる。(続く)

【表1】 2023/24年度の世界の大豆の生産量・輸出量・輸入量



【表2】 大豆生産量の推移

